

スポーツ指導者の社会的勢力質問紙の再検討

Revision of the questionnaire to measure coaches' social power

森 恭

Yasushi MORI

社会的勢力は、潜在的な社会的影響として、Franch & Raven (1959) によって提唱されて以来、多くの研究を生んできた。我が国においても、さまざまな社会的相互作用場面において、社会的勢力を測定する試みがなされ、多くの質問紙が考案されてきている（田崎 (1976, 1979), 浜名ら (1983), 今井 (1986), 平川 (1987))。

本研究者はスポーツ指導者が選手に対して持つ社会的勢力について検討し、多くの知見を得ている。そして、森ら (1990a, 1990b), 伊藤ら (1992) などによって、スポーツ指導者は、選手に対して「専門性」「参照性」「罰の脅威」「利益期待」「指導意欲」「正当性」「親近性・受容性」の7つの基盤に基づいた勢力を保持することが見いだされている。

さて、上記のような研究のほとんどにおいて、社会的勢力は質問紙を用いた調査により測定されている。この際、質問文として「あなたが監督（教師、上司など）の指示に従う理由、あるいは言うことを聞く理由」というものが用いられている。つまり、社会的勢力は、影響を受ける側における、被影響の理由づけ、被影響の理由の解釈であると言える。そして、影響を及ぼす側が「現在の監督」「現在の担任教師」などのように特定されていなければ、得られた回答は単に自身が他者からの影響を受け入れる理由という、被影響者の特性を測定していることになる。また、影響を及ぼす側が「特定の」誰かであることとして回答を求めた場合、得られた回答は被影響者の特性と影響を及ぼす側の行動の特徴についての認知の両方を含むことになる。

本来であれば、個性をもった個人が、他者である影響を及ぼそうとする者をどのように認知することで、どのような行動の変化が現れるか、について検討を加える、というやり方がわかりやすいやり方である。しかし、これまでの社会的勢力研究では、個人の特性（個性）と認知された他者の行動特徴を社会的勢力という一つの概念として扱ってきたと言えよう。さらに、上記のような測定によって得られた、曖昧な部分を含む「社会的勢力」概念によって、影響を及ぼす側への満足感、活動への適応など、社会的勢力の機能について検討がなされている（森ら (1990a, 1990b), 伊藤ら (1992)）ことも厳密さに欠けると言えよう。

これらのことから、本研究では以下のような考えを基本として研究を進めるものとする。

1. 森ら (1990a, 1990b) で使用された社会的勢力測定42項目を使用する。これらの項目は、伊藤・森 (1987) で集められた項目に森ら (1990a, 1990b) で修正が施されたもので、当初の段階で「監督（指導者）に従う理由」を尋ねるものであった。つまり、特定の指導者に対してではなく、その選手がスポーツ指導者に従う一般的な理由を集めたものと言える。
2. 社会的勢力質問紙において全体への質問文を「あなたのチームの指導者はどのような人ですか」として、各項目の内容があてはまる程度を回答させるものとする。
3. 全体の質問文の変更に伴って、各項目文は「監督は～人である」「監督の指示に従うとうまく行く」

などのように監督の特徴や監督からの影響に対する信念を示すものに変更する。

4. このことにより、一般的に指導者に従う理由とされる内容を、特定の指導者に対して選手が認知するか、という点から社会的勢力をとらえることが可能になると考えられる。

目 的

伊藤・森(1987)、森ら(1990a, 1990b)によって作成、使用されたスポーツ指導者の社会的勢力質問紙について、質問紙全体に対する質問文を、選手が現在指導を受けている指導者に特定し、得られた回答から質問紙の構成を再検討する。

方 法

調査期間 平成17年5～6月

調査対象 埼玉県内の高校運動部 28チーム353名(男子219名, 女子134名)

調査方法 各チームに対して質問紙を郵送し、各チームでの実施を依頼した。チームにおいては、指導者が質問紙を配布し、選手の回答を指導者が回収して郵送にて本研究者に返送された。このような手続きの中で選手の回答を指導者が見ることによるトラブルを軽減するために、質問内容・項目を記載した調査用紙と回答のためのマークシートをセットとして実施した。回収にあたってはマークシートのみを回収した。

調査内容 調査用紙は以下の内容からなるものであった。

1. フェイスシート
2. 指導者の社会的勢力
3. 指導者からの被影響感, 活動への充実感, 活動への意欲

2, 3についてはすべて、記載された項目の内容が自身の様子や考えにあてはまる程度を1～6でマークシートに回答するものであった。1～6の意味は、1:全くあてはまらない, 2:あてはまらない, 3:どちらかと言えばあてはまらない, 4:どちらかと言えばあてはまる, 5:あてはまる, 6:よくあてはまる。

また、2の指導者の社会的勢力に関しては、「あなたの運動部(チーム)の指導者はどのような人ですか」という質問文を用いて回答を求めた。

結果ならびに考察

1. 指導者の社会的勢力

得られた回答から主因子解を求めたところ、1.00となる固有値数が7であったため、因子数を5～7とし、バリマックス回転とプロマックス回転を行った。表1は因子数5でバリマックス回転を施した結果である。因子数を5～7と変え、直交回転(バリマックス回転)と斜交回転(プロマックス回転)を施した結果0.40以上の負荷を示した因子番号を表したものが表2である。2つの表から、5因子直交解が最も単純構造に近いと考えられ、項目の意味からも妥当なものと考えられた。また、項目7, 30, 32, 38はいずれの方法においても共通性が低く、高い負荷を示す因子がなかった。このため、以後の分析からはこの4項目を除くこととする。

それぞれの因子は、負荷の高い項目の意味内容からそれぞれ「専門性」「親近性と信頼」「正当性」「指導意欲」「罰の脅威」と解釈できる。森ら(1990a, 1990b)においては「専門・参照性」「罰の脅威」「利益期待」「指導意欲」「正当性」「親近性・受容性」の6つの基盤に基づいた勢力が見いだされ、また伊藤ら(1992)においては、「専門性」と「参照性」を分離して7つの基盤に基づいて研究を進めたが、本研究では5つの基盤にまとまった。

本研究における「専門性」にはこれらの研究で見いだされた専門性、参照性、利益期待が含まれている。指導者の専門性が高いことと、指導者がモデルとなること、そして指導者からの影響を受けることが選手自

表1. 指導者の社会的勢力質問紙への回答に対する因子分析

(N=353, 因子数=5, バリマックス回転, 削除項目なし)

項 目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	共通性
1	.527	.273	.418	.184	-.002	.652
2	.319	.700	.199	.005	-.137	.657
3	.209	.008	.175	-.001	.584	.427
4	.246	.164	.709	.152	.001	.616
5	.700	.009	.141	.188	.005	.629
6	.534	.520	.234	.109	.003	.668
7	.117	<.001	.009	.147	.344	.267
8	.719	.004	.176	.103	.004	.635
9	.274	.213	.731	.005	-.008	.647
10	.736	.200	.009	-.006	.009	.618
11	.415	.662	.362	.121	<.001	.763
12	.126	.217	.673	.147	.008	.558
13	.654	.243	.138	.010	<.001	.587
14	.006	.571	.003	<.001	-.341	.560
15	-.004	-.108	-.005	-.005	.522	.369
16	.604	.289	.353	.137	-.105	.668
17	.832	.294	.201	.156	>-.001	.855
18	.722	.363	.256	.247	.001	.825
19	.196	.421	.006	.160	-.007	.449
20	.381	.138	.245	.006	.609	.583
21	.518	.368	.453	.194	.007	.704
22	.146	.611	.211	.177	.010	.515
23	-.231	-.290	-.008	-.008	.520	.480
24	.483	.371	.506	.137	-.008	.701
25	.277	.660	.342	.194	-.009	.700
26	.365	.005	.417	-.005	.266	.464
27	.277	.139	.728	.135	-.002	.655
28	.632	.354	.248	.215	.101	.707
29	.696	.216	.009	.122	.007	.639
30	-.007	-.286	-.148	-.154	.269	.344
31	.588	.245	.170	.471	.001	.684
32	.334	.002	.255	.297	-.008	.401
33	.647	-.440	.221	.233	.002	.603
34	.003	.505	.005	.225	-.002	.439
35	-.123	-.200	-.261	-.010	.485	.403
36	.271	.578	.217	.374	-.168	.627
37	.211	.323	<.001	.475	<.001	.439
38	.003	.233	.246	.337	-.007	.387
39	.406	.330	.216	.572	.005	.652
40	.269	.412	.164	.624	>-.001	.629
41	.543	.507	.287	.298	-.006	.756
42	.343	.500	.127	.532	-.003	.693
寄与率(%)	19.474	12.912	10.057	6.086	4.797	
累積寄与率(%)	19.474	32.386	42.443	48.529	53.326	

表2. 指導者の社会的勢力質問紙への回答に対する因子分析 (N=353, 因子数=5~7, 斜交もしくは直交回転)
 ※ 抽出因子数と回転方法別による, 各項目の負荷の高い (0.4以上) 因子を示した

No.	当初想定	斜交7	斜交6	斜交5	直交7	直交6	直交5	平均	SD
1	利益性		F1	F1	F1	F1	監督の指示に従うと自分のためになる	4.9	1.03
5	専門性	F1	F1	F1	F1	F1	監督は自分より技術が優れている人	5.1	1.44
6	参照性	F1		F2, F1	F1	F1	監督のようになりたい	3.5	1.60
8	専門性	F1	F1	F1	F1	F1	監督はこの競技をよく知っている	5.5	0.96
10	専門性	F1	F1	F1	F1	F1	監督はよい成績や記録を持っている	4.5	1.52
13	利益性	F1	F1	F1	F1	F1	監督はよい選手を育てたことがある	4.5	1.31
16	利益性	F1	F1	F1	F1	F1	監督の指示は的確である	4.5	1.15
17	専門性	F1	F1	F1	F1	F1	監督は技術的に尊敬できる人	4.5	1.43
18	参照性	F1	F1	F1	F1	F1	監督はよいお手本になる	4.4	1.39
21	利益性				F1	F1	監督の指示に従う方がうまくいく	4.6	1.16
28	参照性	F1	F1	F1	F1	F1	監督の技術を盗みたい	4.1	1.59
29	専門性	F1	F1	F1	F1	F1	監督として有名な人	3.7	1.65
31	利益性	F1, F7	F1	F1	F1, F5	F1	監督からはいろいろな技術を教えてもらえる	4.5	1.36
33	専門性	F1, F7	F1	F1	F1	F1	監督は自分より(その競技の)経験が豊富な人	5.4	1.20
41	受容性				F1	F1	監督はよい指導者である	4.7	1.28
2	親近性	F3	F2	F2	F2	F2	自分は監督が好き	4.2	1.29
11	親近性	F3	F2	F2	F2	F2	自分は監督を信頼している	4.6	1.22
14	受容性	F3	F2, F6-	F2	F2	F2	監督はやさしい人	4.2	1.32
19	親近性	F3	F2	F2	F2	F2	監督はおもしろい人	4.1	1.40
22	受容性	F3	F2	F2	F2	F2	監督は自分(私)のことをよく知っている人	3.5	1.26
25	親近性	F3	F2	F2	F2	F2	監督を人間的に尊敬している	4.2	1.32
34	受容性	F3	F2	F2	F2	F2	自分は監督に信頼されている	3.4	1.22
36	意欲				F3, F4	F2	監督は部長のことを本心に考えてくれる	4.4	1.23
4	正当性	F2	F3	F3	F2	F3	監督の言うことを聞くのは当然である	4.9	1.07
9	正当性	F2	F3	F3	F2	F3	監督の言うことは守らなければならないと思う	4.9	1.02
12	正当性	F2	F3	F3	F2	F3	自分は選手だから監督に従うべきである	4.8	1.18
24	専門性	F2		F3	F2	F3	監督の言うことは正しいと思う	4.4	1.07
26	罰			F3	F3	F3	監督に反抗する勇気はない	3.9	1.67
27	正当性	F2	F3	F3	F2	F3	監督に従うのはあたりまえだと思う	4.5	1.23
37	意欲	F4	F5	F4	F4	F5	監督と一緒に練習してくれる	4.0	1.61
39	利益性	F4	F5	F4	F4	F5	監督には自分の悪いところを直してもらえる	4.5	1.34
40	意欲	F4	F5	F4	F4	F5	監督は熱意を持って接してくれる	4.8	1.23
42	意欲	F4	F5	F4	F4	F5, F2	監督には意欲的に指導してもらえる	4.5	1.32
3	罰	F6	F4-	F5	F6	F5	監督からの罰がこわい	2.7	1.64
15	罰	F5-	F4-	F5	F5-	F5	監督はむりやり指示に従わせようとする	2.6	1.27
20	罰	F6	F6	F5	F6	F5	監督はこわい人	3.5	1.58
23	正当性	F5-	F4-	F5	F5-	F5	監督の指示にはいかたがなから従うようにしている	2.8	1.36
35	罰	F5-	F4-	F5	F5-	F5	監督はいろいろいるとやかましい	3.0	1.35
7	罰	F6	F6				監督は自分を叱る	3.7	1.46
30	正当性	F5-	F4-	F5-	F4-		監督に従うのは他の人がそうするから	2.3	1.24
32	正当性						監督は目上の人である	5.5	0.86
38	意欲	F5	F4	F4			監督はまじめな人	4.9	1.07

身になんらかの利益をもたらすであろうという期待は、概念的には異なるものの、行動から受け取られる指導者の特徴という観点からみれば別々のものにはならないと言えるようである。その他の基盤に関しては、これらの研究と共通した基盤が見いだされており、指導者の社会的勢力として妥当なものであることが改めて確認された。

2. 社会的勢力質問紙の下位尺度構成

本研究の目的は、社会的勢力質問紙の作成であるため、5つの基盤因子に基づいて、5つの勢力下位尺度を構成した(表3)。それぞれの勢力は基盤名に基づいて、専門勢力、親近信頼勢力、正当勢力、指導意欲勢力、罰勢力とした。ただし、本研究においては下位尺度の妥当性を検討するものとし、今後の社会的勢力研究における質問紙構成は、今回のものを基本として尺度ごとの項目数をそろえる等の修正を行っていくものとする。

下位尺度ごとのアルファ係数を見ると、罰勢力でやや低いものの、他の勢力においては高い値を示し、下位尺度としての内的整合性が示された。

表3. 社会的勢力質問紙の下位尺度

尺度名	該当する項目	項目数	可能な得点範囲		平均点	標準偏差	α係数
			最低点	最高点			
専門勢力	1,5,6,8,10,13, 16,17,18,21,28, 29,31,33,41	15	15	90	68.23	15.533	0.952
親近信頼勢力	2,11,14,19,22, 25,34,36	8	8	48	32.52	7.422	0.870
正当勢力	4,9,12,24,26, 27	6	6	36	27.42	5.560	0.868
指導意欲勢力	37,39,40,42	4	4	24	17.79	4.441	0.829
罰勢力	3,15,20,23,35	5	5	30	14.64	4.679	0.657

3. 社会的勢力を独立変数とした重回帰分析

森ら(1990a, 1990b)では、社会的勢力を独立変数として、被影響感、満足度、運動部への関心、練習意欲、チームメイトとの関係それぞれを従属変数として重回帰分析を行っている。双方の研究における社会的勢力変数が同一でないために、直接的な比較はできないものの、総じて以下のような結果が得られている。

- ・ 全ての従属変数に対して、社会的勢力の総合された重相関係数は正の有意な値を示す
- ・ 利益勢力、指導意欲勢力は全ての従属変数に対して、有意な正の影響を与えている
- ・ 罰勢力はほぼ一貫して、有意な負の影響を与えている

ただし、あくまでもこれらの結果は「現在の監督の指示に従う理由」として質問された際の回答としての社会的勢力に基づいたものである。つまり、「指示に従うとしたらこのような理由である」のか「このような理由で指示によく従っている」のかが不明であるため、社会的勢力認知が持つ効果の解釈に困難を来していると考えられる。

このような理由から、本研究においては「あなたのチームの指導者はどのような人ですか」という質問文を用いることにより、指導者の社会的勢力として収集された項目が現在の指導者の中にどの程度認知される

かを指導者の社会的勢力の得点として用いた。従って、まず最初に、本研究において社会的勢力として調査した結果が、実際に指導者からの被影響感や従属感を規定しているかどうかを確かめる必要がある。

表4にみられるように、いずれに対しても重相関係数は正の有意な値であり、影響の認知に対しては専門、親近信頼、指導意欲、罰の勢力が有意な正のアルファ係数を示し、従属に対して親近信頼、正当、指導意欲が有意な正の、罰が有意な負の値を示した。この結果から、社会的勢力として収集された指導者の特徴が現在の指導者に見られる程度を社会的勢力の程度と考えることの妥当性が示されたと言えよう。

また、この他の変数に対しても、全ての重相関係数が有意な正の値を示しており、先行研究と同様に、社会的勢力が選手の運動部活動のさまざまな面に影響を及ぼしていることが示された。

以上のような先行研究との結果の一致から、一般的に指導者に従う理由とされる内容を特定の指導者に対して選手が認知するか、という点から社会的勢力を測定しようとした本研究の試みは妥当なものであることが明らかになり、作成された質問紙の有効性が示されたと言えよう。

そして、今後の研究に際して、今回作成された質問紙の各下位尺度の項目数を整理するなどの手続きを経て、改善された質問紙を用いて行くことが可能となった。

表4. 勢力下位尺度を独立変数とした重回帰分析の結果 (N=353)

	ベータ係数					自由度調整済み	
	専門勢力	親近信頼勢力	正当勢力	指導意欲勢力	罰勢力	重相関係数	重決定係数
影響認知	.330***	.200***	.084	.270***	.131***	.774***	.593
従属	.029	.146*	.495***	.172**	-.094*	.720***	.512
満足感	.150	.255***	-.017	-.074	-.195***	.379***	.131
充実感	.021	.386***	-.034	-.011	-.052	.387***	.138
生活管理	.000	.186*	.122	.043	-.017	.303***	.079
練習意欲	.093	.208***	.088	.151*	-.145***	.490***	.229

*: $P < .05$, **: $P < .01$, ***: $P < 0.05$

参考文献

- French, J.R.P. Jr. and Raven, B. "The basis of social power." In Cartwright, D(Ed.) Studies in social power. University of Michigan Press: Ann Arbor. Michigan. 1959. pp.150-167.
- 浜名外喜男・天根哲治・木山博文「教師の勢力資源とその影響に関する教師と児童の認知」教育心理学研究, 31: 220-228, 1983.
- 平川澄子「体育教師の勢力資源に関する研究—学習者の発達段階別にみた比較を中心に—」お茶の水女子大学人文科学紀要, 41: 129-142, 1987.
- 今井芳昭「親子関係における社会的勢力の基盤」社会心理学研究, 1: 49-56, 1981.
- 伊藤豊彦・森 恭「コーチの勢力資源に関する選手の認知—高校バレーボール部員について—」島根大学教育学部紀要 (教育科学), 21: 25-30, 1987.
- 伊藤豊彦・豊田一成・遠藤俊郎・森 恭「コーチのリーダーシップ行動と社会的勢力の認知との関係」スポーツ心理学研究, 19: 18-26, 1992.
- 森 恭・伊藤豊彦・豊田一成・遠藤俊郎「コーチの社会的勢力の基盤と機能」体育学研究, 34: 305-316, 1990.
- 森 恭・遠藤俊郎・伊藤豊彦・豊田一成「指導者の社会的勢力—中学校, 高校女子バレーボール選手について—」新潟体育学研究, 9: 1-6.
- 田崎敏昭「学級集団における勢力の源泉」佐賀大学教育学部研究論文集, 24: 105-118, 1976.
- 田崎敏昭「児童・生徒による教師の勢力源泉の認知」実験社会心理学研究, 18: 129-138, 1979.